



欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要

建物名称	資生堂掛川工場 増築工事(立体駐車場Ⅱ期工事)	BEE	0.7	BEEランク	B-	★★
------	-------------------------	-----	-----	--------	----	----

2. 重点項目への取組み度

重点項目	得点 [※] /満点	取組み度	評価
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	2.0 /5		がんばろう
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	2.2 /5		がんばろう
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	1.5 /5		がんばろう
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	2.4 /5		がんばろう

※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)

評価 凡例	よい 4 点以上	ふつう 3 点以上	がんばろう 3 点未満
-------	----------------	-----------------	-------------------

3. 重点項目についての環境配慮概要

各項目について配慮した内容を、該当する番号(①～)を示し記述してください。	内訳対応項目																																																																																																																																																																	
	得点																																																																																																																																																																	
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進(Global Warming)	2.0																																																																																																																																																																	
<ul style="list-style-type: none"> ■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) 自走式自動車庫の為、評価対象外 ■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) 周囲と調和した親しみやすい外観、周辺住宅環境へ配慮をする ■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) 自走式駐車場であるため、特に多大なエネルギーを消費しない。 自走式駐車場として特別な設備は無いが、照明設備は全てLED照明とすることで省エネ化を図っている。 ■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) コンクリート骨材や碎石に再生骨材を使用している。また、基礎型枠にラス型枠を用いている。 ■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) 元々、多大な設備を用いる建物ではなく常時人がいないため省エネルギー、CO₂排出には有利な建物である。 	<table border="1"> <tr> <td>Q-1</td> <td>2</td> <td>2.1.2</td> <td>①</td> <td>外皮性能</td> </tr> <tr> <td>Q-1</td> <td>3</td> <td>3.1.3</td> <td>②</td> <td>昼光利用設備</td> </tr> <tr> <td>Q-2</td> <td>1</td> <td>3.2.1</td> <td>③</td> <td>昼光制御</td> </tr> <tr> <td>Q-2</td> <td>2</td> <td>2.5</td> <td>2.2.1</td> <td>④</td> <td>躯体材料の耐用年数</td> </tr> <tr> <td></td> <td>3</td> <td>2.4</td> <td>2.2.2</td> <td>④</td> <td>外壁仕上げ材の補修必要間隔</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>2.2.3</td> <td>④</td> <td>主要内装仕上げ材の更新必要間隔</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>2.2.4</td> <td>④</td> <td>空調換気ダクトの更新必要間隔</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>2.2.5</td> <td>④</td> <td>空調・給排水配管の更新必要間隔</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>2.2.6</td> <td>④</td> <td>主要設備機器の更新必要間隔</td> </tr> <tr> <td>Q-3</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>⑤</td> <td>生物環境の保全と創出</td> </tr> <tr> <td></td> <td>3</td> <td>2</td> <td>⑥</td> <td>敷地内温熱環境の向上</td> </tr> <tr> <td>LR-1</td> <td>1</td> <td></td> <td>⑦</td> <td>建物外皮の熱負荷抑制</td> </tr> <tr> <td></td> <td>2</td> <td></td> <td>⑧</td> <td>自然エネルギー利用</td> </tr> <tr> <td></td> <td>3</td> <td></td> <td>⑨</td> <td>設備システムの高効率化</td> </tr> <tr> <td></td> <td>4</td> <td></td> <td>⑩</td> <td>モニタリング</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>⑩</td> <td>運用管理体制</td> </tr> <tr> <td>LR-2</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>⑪</td> <td>節水</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>1.2.1</td> <td>⑪</td> <td>雨水利用システム導入の有無</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>1.2.2</td> <td>⑪</td> <td>雑排水等利用システム導入の有無</td> </tr> <tr> <td></td> <td>2</td> <td>3.1</td> <td>⑫</td> <td>材料使用量の削減</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>2.1.2</td> <td>⑫</td> <td>既存建築躯体等の継続使用</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>2.1.3</td> <td>⑫</td> <td>躯体材料におけるリサイクル材の使用</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>2.1.4</td> <td>⑫</td> <td>躯体材料以外におけるリサイクル材の使用</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>2.1.5</td> <td>⑫</td> <td>持続可能な森林から産出された木材</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>2.1.6</td> <td>⑫</td> <td>部材の再利用可能性向上への取組み</td> </tr> <tr> <td></td> <td>3</td> <td>4</td> <td>⑬</td> <td>有害物質を含まない材料の使用</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>3.2.1</td> <td>⑬</td> <td>消火剤</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>3.2.2</td> <td>⑬</td> <td>断熱材</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>3.2.3</td> <td>⑬</td> <td>冷媒</td> </tr> <tr> <td>LR-3</td> <td>1</td> <td></td> <td>⑭</td> <td>地球温暖化への配慮</td> </tr> <tr> <td></td> <td>2</td> <td>2.8</td> <td>⑮</td> <td>温熱環境悪化の改善</td> </tr> </table>	Q-1	2	2.1.2	①	外皮性能	Q-1	3	3.1.3	②	昼光利用設備	Q-2	1	3.2.1	③	昼光制御	Q-2	2	2.5	2.2.1	④	躯体材料の耐用年数		3	2.4	2.2.2	④	外壁仕上げ材の補修必要間隔				2.2.3	④	主要内装仕上げ材の更新必要間隔				2.2.4	④	空調換気ダクトの更新必要間隔				2.2.5	④	空調・給排水配管の更新必要間隔				2.2.6	④	主要設備機器の更新必要間隔	Q-3	1	3	⑤	生物環境の保全と創出		3	2	⑥	敷地内温熱環境の向上	LR-1	1		⑦	建物外皮の熱負荷抑制		2		⑧	自然エネルギー利用		3		⑨	設備システムの高効率化		4		⑩	モニタリング				⑩	運用管理体制	LR-2	1	3	⑪	節水			1.2.1	⑪	雨水利用システム導入の有無			1.2.2	⑪	雑排水等利用システム導入の有無		2	3.1	⑫	材料使用量の削減			2.1.2	⑫	既存建築躯体等の継続使用			2.1.3	⑫	躯体材料におけるリサイクル材の使用			2.1.4	⑫	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			2.1.5	⑫	持続可能な森林から産出された木材			2.1.6	⑫	部材の再利用可能性向上への取組み		3	4	⑬	有害物質を含まない材料の使用			3.2.1	⑬	消火剤			3.2.2	⑬	断熱材			3.2.3	⑬	冷媒	LR-3	1		⑭	地球温暖化への配慮		2	2.8	⑮	温熱環境悪化の改善
Q-1	2	2.1.2	①	外皮性能																																																																																																																																																														
Q-1	3	3.1.3	②	昼光利用設備																																																																																																																																																														
Q-2	1	3.2.1	③	昼光制御																																																																																																																																																														
Q-2	2	2.5	2.2.1	④	躯体材料の耐用年数																																																																																																																																																													
	3	2.4	2.2.2	④	外壁仕上げ材の補修必要間隔																																																																																																																																																													
			2.2.3	④	主要内装仕上げ材の更新必要間隔																																																																																																																																																													
			2.2.4	④	空調換気ダクトの更新必要間隔																																																																																																																																																													
			2.2.5	④	空調・給排水配管の更新必要間隔																																																																																																																																																													
			2.2.6	④	主要設備機器の更新必要間隔																																																																																																																																																													
Q-3	1	3	⑤	生物環境の保全と創出																																																																																																																																																														
	3	2	⑥	敷地内温熱環境の向上																																																																																																																																																														
LR-1	1		⑦	建物外皮の熱負荷抑制																																																																																																																																																														
	2		⑧	自然エネルギー利用																																																																																																																																																														
	3		⑨	設備システムの高効率化																																																																																																																																																														
	4		⑩	モニタリング																																																																																																																																																														
			⑩	運用管理体制																																																																																																																																																														
LR-2	1	3	⑪	節水																																																																																																																																																														
		1.2.1	⑪	雨水利用システム導入の有無																																																																																																																																																														
		1.2.2	⑪	雑排水等利用システム導入の有無																																																																																																																																																														
	2	3.1	⑫	材料使用量の削減																																																																																																																																																														
		2.1.2	⑫	既存建築躯体等の継続使用																																																																																																																																																														
		2.1.3	⑫	躯体材料におけるリサイクル材の使用																																																																																																																																																														
		2.1.4	⑫	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用																																																																																																																																																														
		2.1.5	⑫	持続可能な森林から産出された木材																																																																																																																																																														
		2.1.6	⑫	部材の再利用可能性向上への取組み																																																																																																																																																														
	3	4	⑬	有害物質を含まない材料の使用																																																																																																																																																														
		3.2.1	⑬	消火剤																																																																																																																																																														
		3.2.2	⑬	断熱材																																																																																																																																																														
		3.2.3	⑬	冷媒																																																																																																																																																														
LR-3	1		⑭	地球温暖化への配慮																																																																																																																																																														
	2	2.8	⑮	温熱環境悪化の改善																																																																																																																																																														
"災害に強いしずおか"の形成(Disaster)	2.2																																																																																																																																																																	
<ul style="list-style-type: none"> ■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) ラーメン構造を採用 	<table border="1"> <tr> <td>Q-2</td> <td>2</td> <td>2.5</td> <td>2.1.1</td> <td>⑯</td> <td>耐震性</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>2.1.2</td> <td>⑯</td> <td>免震・制振性能</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>2.4.1</td> <td>⑰</td> <td>空調・換気設備</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>2.4.2</td> <td>⑰</td> <td>給排水・衛生設備</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>2.4.3</td> <td>⑰</td> <td>電気設備</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>2.4.4</td> <td>⑰</td> <td>機械・配管支持方法</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>2.4.5</td> <td>⑰</td> <td>通信・情報設備</td> </tr> </table>	Q-2	2	2.5	2.1.1	⑯	耐震性				2.1.2	⑯	免震・制振性能				2.4.1	⑰	空調・換気設備				2.4.2	⑰	給排水・衛生設備				2.4.3	⑰	電気設備				2.4.4	⑰	機械・配管支持方法				2.4.5	⑰	通信・情報設備																																																																																																																							
Q-2	2	2.5	2.1.1	⑯	耐震性																																																																																																																																																													
			2.1.2	⑯	免震・制振性能																																																																																																																																																													
			2.4.1	⑰	空調・換気設備																																																																																																																																																													
			2.4.2	⑰	給排水・衛生設備																																																																																																																																																													
			2.4.3	⑰	電気設備																																																																																																																																																													
			2.4.4	⑰	機械・配管支持方法																																																																																																																																																													
			2.4.5	⑰	通信・情報設備																																																																																																																																																													
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進(Universal Design)	1.5																																																																																																																																																																	
<ul style="list-style-type: none"> ■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) 一般公共用及び特定路外駐車場ではない。 ■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮) 隣地へライトがあたらないようにライトグレア防止対策をしている。 	<table border="1"> <tr> <td>Q-2</td> <td>1</td> <td>1.1.3</td> <td>⑱⑲</td> <td>ユニバーサルデザイン計画</td> </tr> <tr> <td></td> <td>3</td> <td>2.4</td> <td>⑳</td> <td>階高のゆとり</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>3.1.2</td> <td>㉑</td> <td>空間の形状・自由さ</td> </tr> <tr> <td>Q-3</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>㉑</td> <td>地域性への配慮、快適性の向上</td> </tr> </table>	Q-2	1	1.1.3	⑱⑲	ユニバーサルデザイン計画		3	2.4	⑳	階高のゆとり			3.1.2	㉑	空間の形状・自由さ	Q-3	3	2	㉑	地域性への配慮、快適性の向上																																																																																																																																													
Q-2	1	1.1.3	⑱⑲	ユニバーサルデザイン計画																																																																																																																																																														
	3	2.4	⑳	階高のゆとり																																																																																																																																																														
		3.1.2	㉑	空間の形状・自由さ																																																																																																																																																														
Q-3	3	2	㉑	地域性への配慮、快適性の向上																																																																																																																																																														
"緑化及び自然景観"の保全・回復(Nature)	2.4																																																																																																																																																																	
<ul style="list-style-type: none"> ■室外環境(敷地内)対策 (⑳生物環境の保全と創出/㉒まちなみ・景観への配慮/㉓敷地内温熱環境の向上) 特質することは有りません。 ■敷地外環境対策 (⑮温熱環境悪化の改善) 特質することは有りません。 	<table border="1"> <tr> <td>Q-3</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>⑵</td> <td>生物環境の保全と創出</td> </tr> <tr> <td></td> <td>2</td> <td>3</td> <td>⑵</td> <td>まちなみ景観への配慮</td> </tr> <tr> <td></td> <td>3</td> <td>2</td> <td>⑶</td> <td>敷地内温熱環境の向上</td> </tr> <tr> <td>LR-3</td> <td>2</td> <td>2.8</td> <td>⑮</td> <td>温熱環境悪化の改善</td> </tr> </table>	Q-3	1	3	⑵	生物環境の保全と創出		2	3	⑵	まちなみ景観への配慮		3	2	⑶	敷地内温熱環境の向上	LR-3	2	2.8	⑮	温熱環境悪化の改善																																																																																																																																													
Q-3	1	3	⑵	生物環境の保全と創出																																																																																																																																																														
	2	3	⑵	まちなみ景観への配慮																																																																																																																																																														
	3	2	⑶	敷地内温熱環境の向上																																																																																																																																																														
LR-3	2	2.8	⑮	温熱環境悪化の改善																																																																																																																																																														

CASBEE[®]-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	資生堂掛川工場 増築工事(立体駐車)	階数	地上1F
建設地	静岡県掛川市長谷字極楽1120、他	構造	S造
用途地域	工業地域、無指定	平均居住人員	0人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年5月 予定	評価の実施日	2019年10月7日
敷地面積	148,601 m ²	作成者	丹羽則行
建築面積	3,674 m ²	確認日	2019年10月7日
延床面積	3,669 m ²	確認者	丹羽則行



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.7

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外のオンサイト手法 ④上記+オフサイト手法

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.5

Q1 室内環境

Q1のスコア = 0.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.4

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.7

LR のスコア = 2.8

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 0.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.2

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.4

3 設計上の配慮事項

総合	その他	
元々、多大な設備を用いる建物ではなく、居室はなく常時人がいないため省エネルギー、CO ₂ 排出には有利な建物である。 「CASBEE静岡2016年版による評価結果」		
Q1 室内環境 自走式自動車庫のため、評価対象外	Q2 サービス性能 設備が少ないため、設備更新期間が長く、鉄骨躯体のみで構成されているために耐用年数の高い建物である。	Q3 室外環境(敷地内) 周囲と調和した親しみやすい外観、周辺住宅環境へ配慮をする。
LR1 エネルギー 自走式駐車場であるため、特に多大なエネルギーを消費しない。照明設備は全てLED照明を採用。	LR2 資源・マテリアル コンクリート骨材や砕石に再生骨材を使用している。	LR3 敷地外環境 隣地へライトがあたらないようにライトグレア防止対策をしている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
 ■LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい